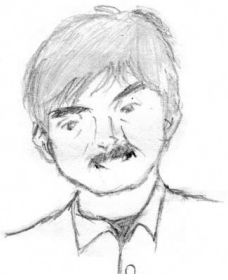


ひらぽう



第21報（平成30年4月）



4月になりました。以前、相談員をやっていた T です。皆様方つつがなくお過ごしでしょうか。

いつぞや、職場の朝礼で、職員回り持ちでやっている「今日の一言」で、職員のひとりが「四月は残酷極まる月だ」という詩の一節を挙げ、入学や就職など人生の節目が4月に多く訪れ、その順応に苦しむ人も多いことを話していました。もっとも、詩の作者 T. S. エリオットは、イギリス人で、新学期は9月からなのですが…。イギリスの4月は、関西の3月、北海道の4月あたりの気候でしょうか。だから「リラの花を死んだ土から生み出し」たり「春の雨で鈍重な草根をふるい起こ」したりします（いずれも西脇順三郎訳）。

少年の頃、今で言うスクールカーストであまり上位でなかった私も、入学時やクラス替えのたびに新しく変わろうとして、早々に現実に気づかされることを繰り返していました。まあ、人間というものは、そう簡単には変わらないということです。それが、少年や若者であってもね。運動神経など最初から無いものや社交性や活発な自分などそのときに無いものを持ってこようとしてもそりゃ無理で、挫折を味合うのがおちです。

そのような私ですが、この4月にまた挫折するかも知れないことをやっています。長年勤めた市役所を定年1年残して辞め、精神障害者を中心に支援しているNPOで働くこととしました。動機は色々ですが、直接には、イタリアで精神科病院廃絶に努めたフランコ・バザーリア達を描いた映画『むかしMattoの町があった』を昨夏観たことでしょう。1982年に市役所に入職し、仕事で精神病患者（今で言えば精神障害者）の人々と出会い、一方でイタリアでは精神科病院を廃止したということを知り（1978年に世界初の精神科病院廃絶法である通称バザーリア法が成立）、日本でもそのように動いていくのだと思っていました。当時、精神医療の関係者の研修会に仕事で参加して、そのときのテーマが病院内の処遇についてであったことから、若造ながらわざわざ挙手して「何をぬるいことを議論しているのか」みたいなことを発言し、後日そのことを聞いた上司から叱責されたりしていました。そんなことを憶い出し、「俺はこういうことをやりたかったのかな」と考えるに至りました。ちなみに日本では、長期入院患者は以前よりも減ったものの、精神科病院は一向に減らず、今も世界に冠たる精神科病院大国です。

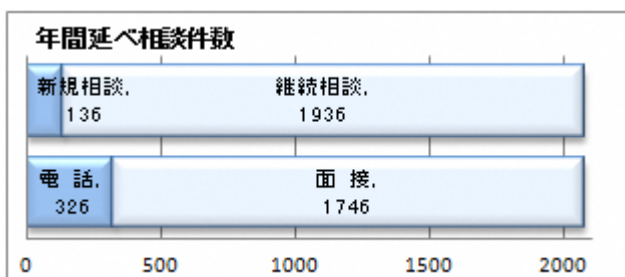
転職の結果、収入は大きく下がります。まあ、このまま居てもあと1年したら定年で、どうせ収入は下がるのだからと納得することになっています。とれぶりんかのNさんやステップフォワードのSさんなどの影響を受けてしまったのかもしれない。

とにかく、ネットワーク会議を立ち上げて6年、相談支援を始めて5年、多くの皆様にお世話になりました。私としてもとても実り多い日々だったと思っています。ありがとうございます。ただ、転職後も職場は枚方市内で、皆様にお会いすることも頻繁にあることと思います。見かけたら声をかけてやってください。今後ともよろしくお願いします。

まずはじっくりお話をお聴かせください

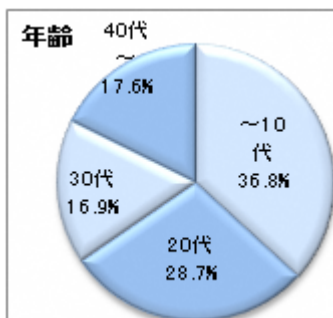
平成 29 年度の相談状況のご報告

年間延べ相談件数

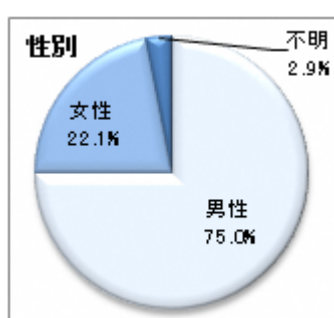


←新規相談が 136 件、継続相談が延べ 1936 件、合計延べ相談件数は 2072 件でした（昨年度の合計延べ相談件数は 1548 件）。1 回で適した情報提供をさせてもらう場合もありますが、多くは時間をかけながら継続した相談を重ねています。

～新規相談（136 件）の内訳～

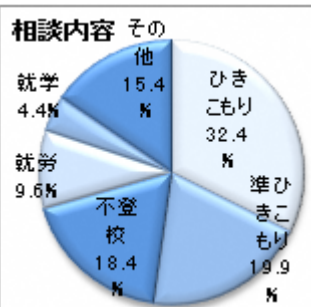


←ご本人の年齢層は、10代20代が多いですが、幅広くご相談をお受けしています。40代以上の方のご相談も一定数あります。

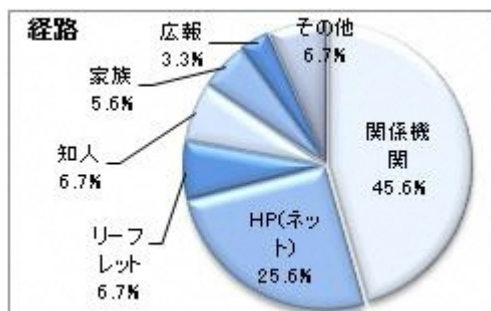
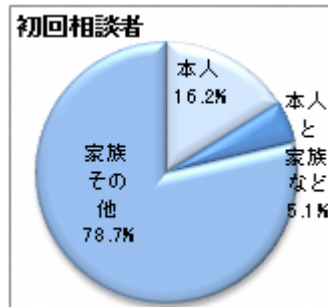


←男性のご相談が7割と多いですが、昨年度は4割が女性のご相談であったことから、潜在的にニーズはあっていると感じています。

→相談内容は様々です。複数の背景を含んでいることも多いです。（グラフは主な相談ひとつの集計です）



→初回の相談者は8割近くが、ご家族からの相談です。ご家族との相談を通して、ご本人とつながっていくことを一緒に考えていきます。



←ひきこもり等子ども・若者相談支援センターを知ったきっかけは、関係機関からの紹介が約半数です。ネットワークのつながりが進んでいることを実感しています。ホームページやリーフレットなども窓口を知るきっかけになっています。今後も、必要な人に必要な情報を届けられるように工夫していきます。

（新規相談の内、聴き取りを行った分のみの集計です）

最近のひらほ

陶芸はじめました！

粘土をこね、思い思いの形につくりました。

写真は、素焼きをし、釉薬を塗った段階です ⇒ 本焼き後、どんな色が表れるのか楽しみです。



電気窯です

～発行元・お問い合わせ先～

枚方市ひきこもり等子ども・若者相談支援センター（枚方市子ども総合相談センター **となとな** 内）

電話：050-7102-3228 / 相談専用電話：072-843-2255 / FAX：072-846-7952